

私設パーマネントコースと公認パーマネントコース。それぞれが活用されているのが佐世保市の烏帽子岳コース。グループでミニ競技会を行ったり、オリジナルコースを作ったり。年中オリエンテーリング愛好家を迎えてくれる。

烏帽子岳コース
長崎県 No.2 JOA 公認 No.165
10 km 9 ポスト

充実した野外活動施設

長崎県北部に位置する佐世保市は、南九十九島を擁し、西海国立公園にも指定される風光明媚な土地から。九州最大のテーマパーク、ハウステンボスもあることから、この街には多くの観光客が訪れます。

オリエンテーリングコースは、今回紹介する「烏帽子岳」コースと「佐世保九十九島」コースが設置されましたが、その後「佐世保九十九島」コースは閉鎖されてしまっています。

烏帽子岳。標高 568m のこの山は、佐世保市街に隣接し、その男性的な姿から佐世保富士とも呼ばれ、佐世保市の象徴とされています。オリエンテーリングのスタート地点になっている「県立佐世保青少年の天地」はその南麓にあり、専らマイカーで訪れる人が多いようです。市営バスは佐世保駅前バスターミナルの 5 番乗り場から出ており、松浦町・山手町經由「烏帽子岳」または「下宇戸」行きで「青少年の天地入口」で降りると正門は目の前です。ただし、1 日数本しかありませんので、事前に確認してからお出かけ下さい。

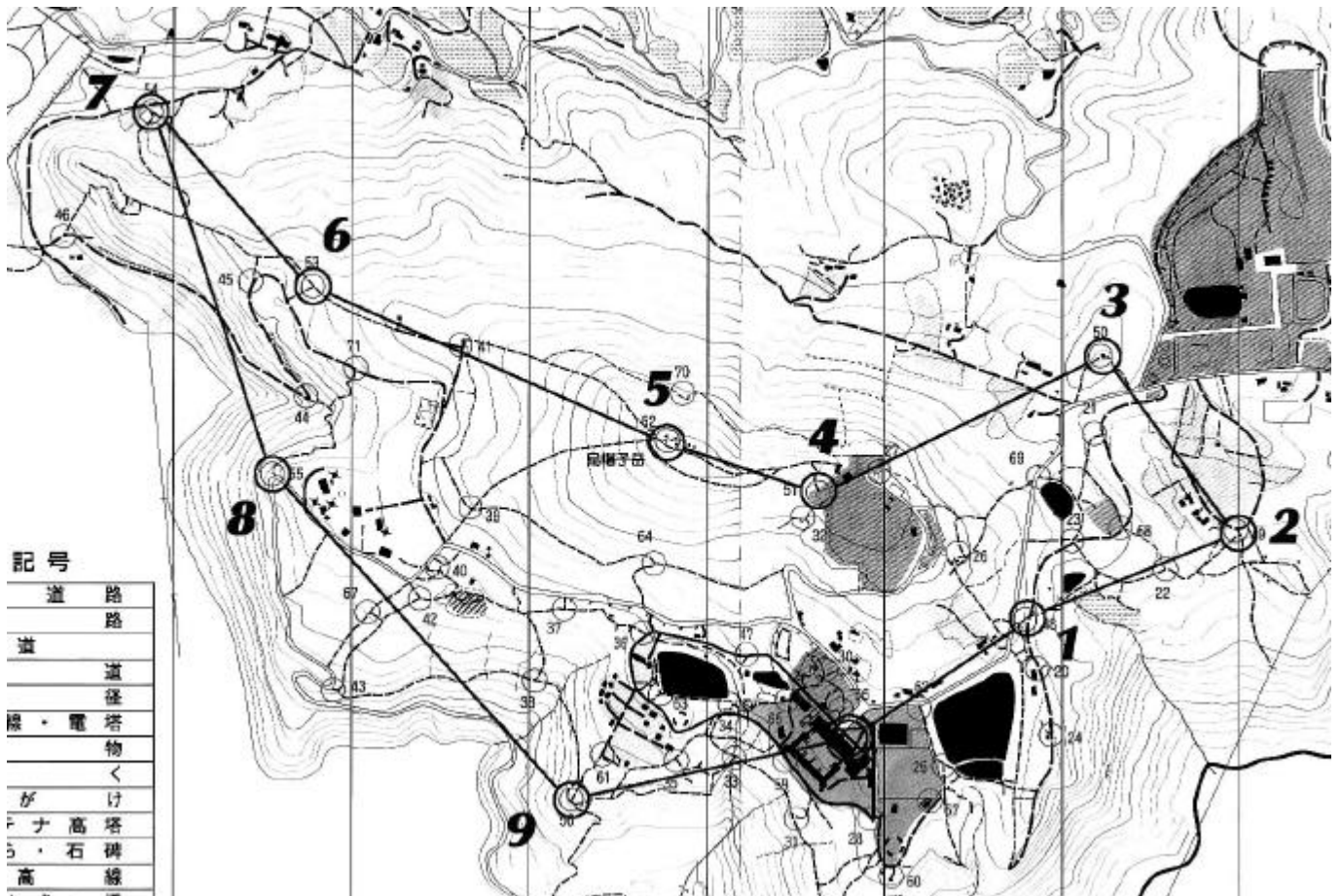
明治 100 年を記念して建設された「青少年の天地」は、充実した野外活動施設が整備されていることもあり、ゴールデンウィークのこの日は雨天にもか

かわらず、多くの来訪者で賑わっていました。

今回の九州巡りは、海岸沿いに九州をまさに一周する行程。4 月 30 日に神奈川県大和市を出発し、高速道路をひた走り。翌日山口県「鑄銭司」コースをひと回りしたのち、九州へと乗り込みました。東彼杵の道の駅で車中泊をし、5 月 2 日は早朝に長崎県「野岳湖」コースに挑戦。無事に全ポストを確認し、ハウステンボスへ向かう車で混み合う大村湾沿いの国道 205 号線を避け、長崎自動車道と南九州自動車道を乗り継いで佐世保へと向かったのです。

私設コースも充実!

「青少年の天地」の敷地内には案内板の姿はなかったものの、窓口で O L について訊ねてみると、素早い反応でマップとマスターと差し出してくれます。1990 年に改訂された PC マップのコピーにマスターが記されていたので



すが、手渡されたマップはこれを更に刷新したもの。対応してくれた事務員は「このマップはうちが作った私設コースのもので、公認コースのものではないんです」といい、PCマップ自体はもう扱っていないとのことでした。新マップには、スコアOL用に数多くのポストが記されています。しかし幸いしたのは、ここに記された48～56番までのポストが公認コースのもので、ポストも、他が平板製に対し、PC用はしっかりと三角錐で作られています。

30年ほど前に開設された初期のコースは、スタート直後に「烏帽子岳」に登り、その後北麓を巡っていました。マップの改訂は79年と90年。2度目の改訂は、コース変更に伴ってなされたものと思われる。現在のコースは「青少年の天地」のある南麓が主体となっています。

公認コースにトライ

スタートするとスコア用のポストが散見されます。大きな池の前を過ぎ、道路が北に大きくカーブした先で林に分け入ります。道路と並行した道との分岐で早速第1ポストを発見。やや小型ながらも立派なポストに、整備の良さが伺えます。

ここからは気持ちのいい自然散策路。植林地内に続く小道の分岐を丁寧に拾いながら歩いて行くと、広い道路に出る直前で第2ポストに出会います。

このまま北に向かうと、新地図で初めて登場する「えぼし岳高原リゾートスポーツの里」に到達。かつての第7、第8ポストを飲み込む形で整備されたこの施設は、オールシーズン楽しめる人工芝スキー場やミニゴルフ場などがあります。第3ポストは、この西側にある小高い丘の上に置かれています。

ここからいよいよ「烏帽子岳」へ。標高568mとは言っても、もともと高いところから歩き始めているので、アップは至って緩やかです。丘を下り、道路を経由して遊歩道に入ります。林を抜けると視界が開け「風と星の広場」に到達。晴天であれば、ピクニックには打って付けのところ。第4ポストは、広場の北西端にあるのですが、倒木でやや見えにくくなっています。

第5ポストが「烏帽子岳」山頂。第4ポストから北に向かうルートが藪で閉

ざされているため、一旦駐車場へと回り込みます。正規の登山道の入口があり、西へ石段が続いています。私が差し掛かったときは、風雨ともに強くなり、傘すらさせない状況でしたが、それでも行き交う人がちらほら。頂上にたどり着くと、遠景を望むことは叶わなかったものの、眼下の街や海、九十九島の眺望はほしいまま。艦船の停泊する、佐世保ならではの港の景色が見渡せます。ポストは山頂を少し過ぎたところにあり、見つけにくいかもしれません。

「烏帽子岳」登頂も、駐車場と山頂の往復で済ませてしまう人がほとんどのようで、さらに西へ下るルートは至ってひっそりとしています。テラスにある分岐から続けて西進すると、雰囲気満点の森が迎えてくれるでしょう。途中、旧第3ポストの支柱を発見。こういう遺構に敏感に反応してしまうのは、PC病のなせる技…。このポストがまだ現役だった頃に思いを馳せながら先に進むと、第6ポストは分岐にたずんでいました。

この先、ほどなく広い鞍部に到達します。第7ポストへ下る小径は、この鞍部から北に延びているのですが、林と同化したルートの入口を一発で見極めるのは相当困難です。そろそろあるかな、などと思っているうちに通り過ぎ、上り坂に差し掛かってはじめて見過ごしたことに気づくでしょう。てこずりながらも何とか入口を見出し、獣道然とした小径を下ると、第7ポストに導いてくれます。ポストは土台から引き抜かれ、斜面に横たわっていました。

第8ポストはこのコースの最難関。ぐるりと山裾を巡ってたどり着いたスコア用44番ポスト。ここからわずかの区間は小径を経由することになるのですが、これが分かりにくいのです。見当をつけて斜面に取り付いたものの、等高線に沿ったルートに乗ることができず、結局上り過ぎてアンテナのある地点に到達。道路を引き返して分岐のポストを発見しました。

ヘアピンカーブから続くルートが最後の山道。緩やかな上り坂を進み、沢を越えて南に向かうと、分岐に最終ポストは立っています。「青少年の天地」の裏側に通じる道を歩いていると、至るところにポスト、ポスト…。この私設コースの存在があればこそ、公認コースも生かされているのだということを実感します。

九州でPCさんまい

所要2時間33分。PCだけでも程よいハイキングコースですが、スコア用に全51のポストが設置されています。グループで得点を競ったり、自在に組み合わせて、オリジナルコースを作ったり、楽しみ方は様々です。

この日の夕方には佐賀県「川上」コースも歩き、1日だけで3コース完歩を達成。翌日から、熊本、鹿児島、宮崎、大分と巡り、全13コース、車の総走行距離4,300km、地球の直径の3分の1にも及ぶ旅となりました。

(2004年5月2日踏破)
(大高竜亮)